

大腸がん検診（便潜血→大腸内視鏡）による大腸がんの減少

米国の大規模研究によれば、大腸がん検診（便潜血→大腸内視鏡検査）を受診する人が約50%増加することによって、大腸がんが26%減少し、進行大腸がんが36%、大腸がん死亡が52%減少する結果となり、研究結果が「Gastrointestinal Endoscopy」誌に報告されました。

